

末文になって申し訳ないが、このコジマヒゲナガコバネカミキリは林 匡夫 博士に同定して頂いた。厚く御礼申しあげる。同時に学名も同博士の御教示で従来の *Molorchus* 属でなく *Glaphyra* 属とした。

## クビジロカミキリ神戸市内に産す (兵庫県甲虫相資料・137)

高 橋 寿 郎

クビジロカミキリ *Xylariopsis* (*Xylariopsis*) *mimica* Bates, 1884 (模式標本, 中禅寺, 札幌) は日本全国 (屋久島もふくむ), 朝鮮, 中支那, 満州とに分布しているが, 必ずしも多く産する種では無さそうである (青森県から初記録としてエゾエノキの根元の枯葉の下から越冬中のものが採集出来たと, 佐藤, 1983)。

兵庫県下からは従来宍粟郡の赤西が知られているのみで県下産としては珍しい種のようなのである。1983年5月8日神戸市内烏原貯水池畔で長い網で樹木の枝先を拘って1♀が入ってきた。樹種は確認出来なかった。温帯林帯のツルウメモドキに集まり, 幼虫はこれを食べると言われている。一応記録として報告しておき度い。はっきりした色彩をしているので同定の間違いは無いと考えられる (最近赤西のツルウメモドキから得たこの種の蛹を黒田祐一氏は図説しておられる, 1983)。

## 兵庫県下でのイガラシカッコウの分布 (兵庫県甲虫相資料・138)

高 橋 寿 郎

イガラシカッコウ *Tillus igarashii* Kōno, 1930 は北海道定山溪で採集された1♀ (3-Y-1928, K. Igarashi leg.) に基いて河野広道博士が図をつけて記載されたものである (*Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. Vol. XI, pt. 3, P.134~135, Fig.1, 1930*)。種名には採集者名が用いられている。

その後カッコウムシ科を研究しておられた伊賀正汎氏が鳥取県大山産で原色図説をされた (1955)。その時稀な種で燈火に飛来することがあるとされ, 大阪府能勢, 九州英彦山の産も記録しておられる。